

雌阿寒岳 地形図「雌阿寒岳・オンネトー」

ポンポン山雑感

2021年6月24日

三鍋敏郎

野中温泉に車を止め、駐車場から南に向かう。本日のコースは昨日、武佐岳山頂でお会いした地元の農業経営者の進言に従って反時計回りコースを歩くつもり。



オンネトー湖から雌阿寒岳に向かう。アカエゾマツの林の中の登山道は木の根が複雑に絡み歩きにくい。ゴゼンタチバナが両脇に連続して咲き、ツマトリソウも交じる花の道である。四号目を過ぎた辺りで林床をよく観察すると、珍しいランの花を見つけたが、観察された形跡がないので、気づかずに通過する人々が多いのだろう。

五合目辺りからは白い花を咲かせるイソツツジが多くなる。



阿寒富士が見えだすと、メアカンキンバイ、メアカンフスマなどが咲き、ザレ地にはコマクサのピンクの花が見られる。紫のイワブクロはまだ蕾である。礫地をひたすら登る。雌阿寒岳の南斜面下部には火山観測員らしい人々が数人集まっているのが見える。

火口東側の尾根に上がると、眼下に中マチネシリ火口からの噴煙が見え、阿寒湖、雄阿寒岳から北東方向に連なる斜里岳、海別岳、羅臼岳などの蒼い山々の重なり。大自然の営みの偉大さに圧倒される神々しい風景が広がっている。



火口から吹き出す硫黄を含んだ水蒸気の匂いを感じながらしばし佇む。有名な山なので訪れる登山者が多いが、中野温泉から往復される方が多いように感じた。

圧倒される風景を脳裏に焼付、去りがたい風景に別れを告げて下山にかかる。

ゴロゴロの火山岩の中をジグザクに下ってゆく。ハイマツの雌花雄花の蕾、白いマルバシモツケが咲いている。イソツツジが多くなり白い花のプロムナードが延々と続くのである。標高 999m を過ぎると道は穏やかになり歩くやすくなる。



植生を楽しむ余裕が生まれてくる。後ろを振り仰ぎ険しい山容を確かめ「厳しかったな～～」と思わず呟いている。

下山後に訪れた野中温泉は源泉かけ流しで洗い場はないが、お湯が最高でした。

★コース 野中温泉 7:15～オンネトー8:05 発 10～四合目 9:05 発 8～七合目 10:14 発 18～九合目 10:52～山頂 11:05 発 18～六合目 12:03 発 22～四合目 12:47～二合目 13:12～野中温泉 13:46

★メンバー 三鍋・楠見・他 1